

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 29 年 10 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 29 年 7 月～9 月期の実績および平成 29 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	43.3%
水産業部会	30 社	17 社	43.3%
機械工業部会	30 社	9 社	30.0%
建設業部会	30 社	15 社	50.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	15 社	50.0%
合 計	150 社	73 件	48.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

－業況は前期から更に回復するも、時期は大幅な悪化の見通し－

1. 全体の動き(業況)

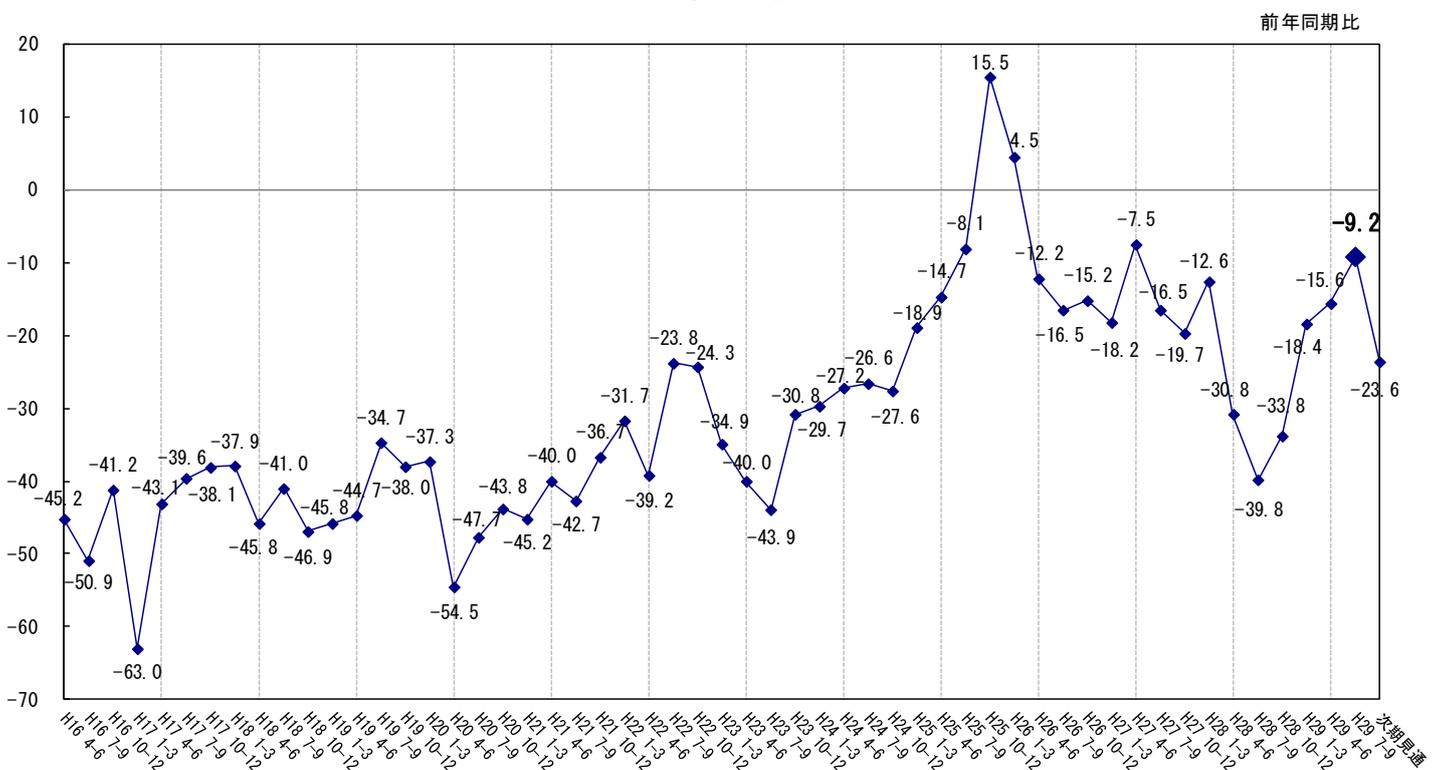
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成29年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比▲9.2**と前回調査時の▲15.6よりも更に**6.4ポイント好転**しました。前回調査時の次期見通し(平成29年7～9月)は▲7.2であったことから、若干届かなかつたものの、商業・食品業以外の全業種で好転となりました。当市の基幹産業である水産業が本格稼働したことや、まちなか市営住宅の建設工事も追い込みとなり、関連する業種でも需要があったようではあります。一方で商業・食品業、建設業では需要の他地域への流出は深刻化しております。

業況判断DIを前年同期と比べてみると、商業食品業[前年DI値▲44.4→今期▲33.3]、水産業[前年DI値▲55.6→今期▲11.8]、機械工業[前年DI値▲35.7→今期11.1]、建設業[前年DI値▲35.0→今期0.0]、観光サービス業・諸業[前年DI値▲27.8→今期0.0]と全ての業種で前年同期よりも大きく好転となりました。経営上の問題点は、該当する業種で仕入単価の上昇、需要の停滞、原材料の不足等について訴える声が多くなっております。

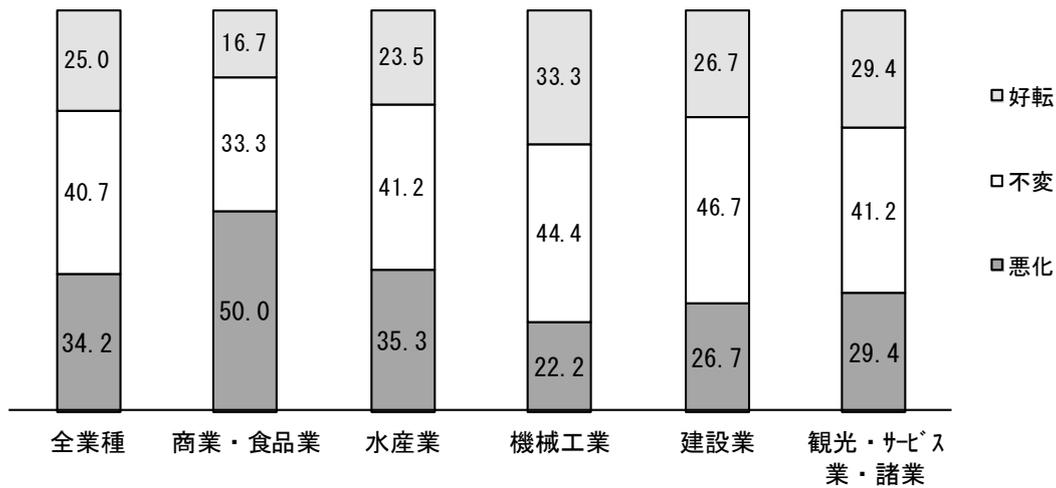
来期(平成29年10月～12月)については、今期と比べて**業況判断DIは、▲23.6と再び悪化する**との見通しが寄せられる中、商業・食品業は▲55.6と最も深刻な見通しとなっております。唯一水産業だけが、好転する見通し値を示しており、主力であるホタテ漁の追い込みとサケ・マス漁への期待が込められているものと思われます。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

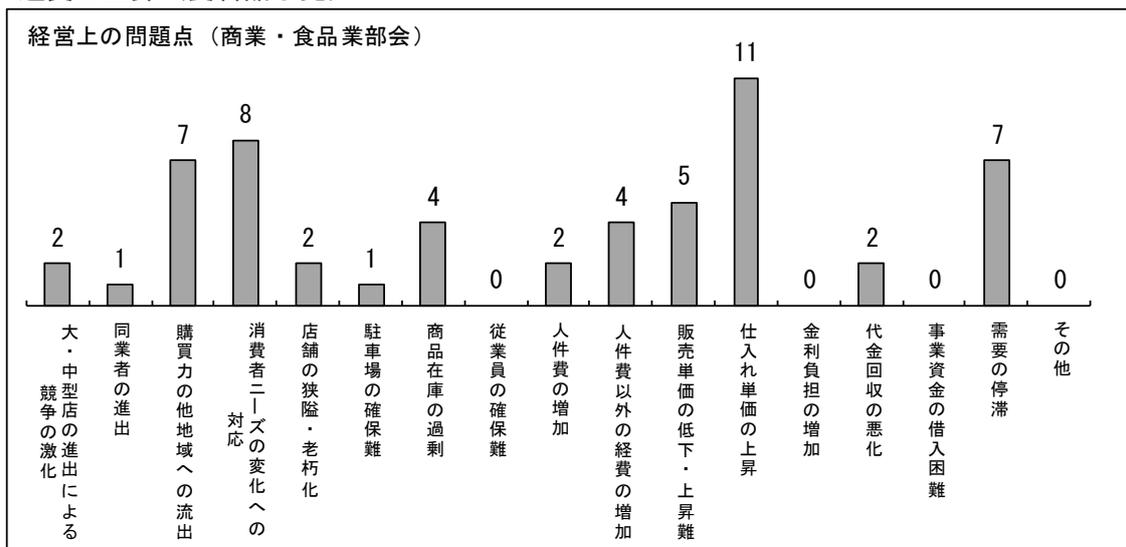
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲33.3（前年DI値▲44.4、来期見通し▲55.6）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期より11.1ポイントの好転となりました。昨年は前年に実施された「もんべつ地域活性化商品券」の発行後の反動により消費が落ち込んだことによる悪化が大きな要因で、その時期と比較するとは回復しているものの、前回調査時（▲17.6）と比較すると大きな悪化となりました。衣料品や食料品の小売業は、通販サイトや宅配サービスの普及による需要の流出も大きな要因となっており、一部コンビニエンスストアは好調に推移しているとの回答が寄せられています。来期は、再び大きく悪化の見通しとなっています。

経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「消費者ニーズの変化への対応」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・購買人口の減少（家具小売）
- ・向上心を持って働く人が少ないと感じている。（食品製造）
- ・地産品の減少。野菜、鮮魚について特に顕著。（食料品小売）
- ・運賃の上昇（食料品小売）

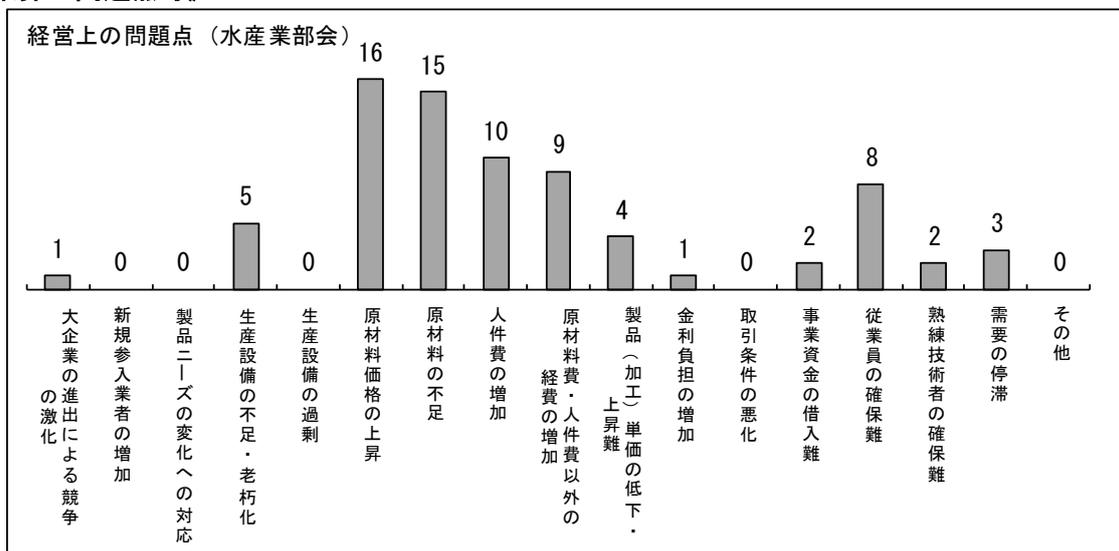


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲11.8（前年DI値▲55.6、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、平成26年冬の低気圧の影響で帆立が壊滅的な被害に遭って以降、水揚げ量も徐々に回復の兆しを見せ、業況は前年よりも43.8ポイントと大きく回復しま

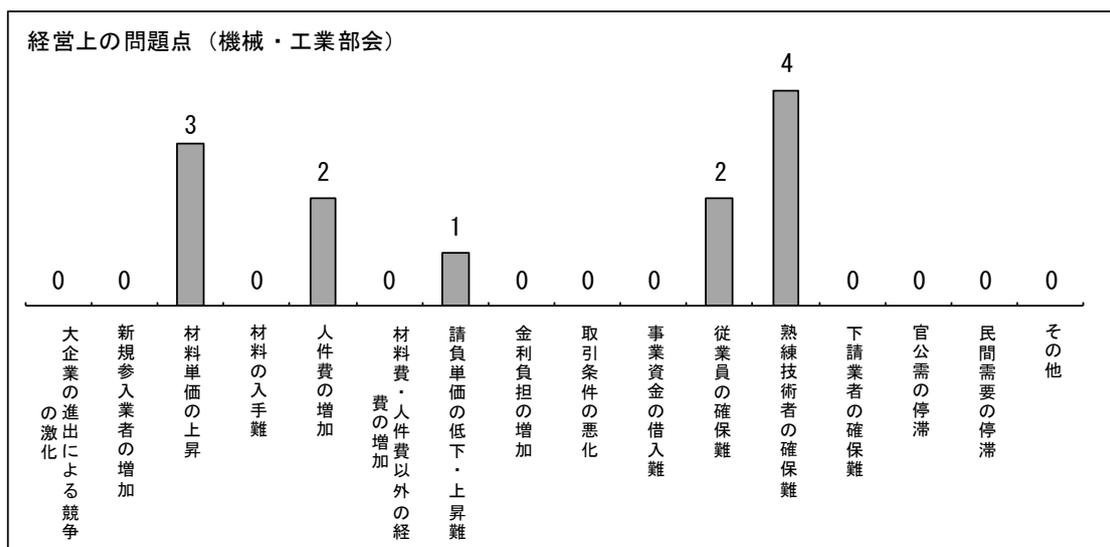
した。しかしながら、温暖化により水揚げされる魚種の変化や、漁獲量の減少により原材料の価格が高騰し、依然として水産加工場には厳しい状況が続いています。また、仕事量は回復しても、通年雇用の事業所に人員が流れ、冬期間最小限の人数で仕事をする事業所にとっては最盛期に従業員が集まらず苦慮しているとの声も寄せられています。来期は、ホタテ漁は休漁を控えているもの、サケ・マス等の漁が本格化することから、更に回復の見通しとなっています。経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」「原材料の不足」が突出して多くなっています。

《業界の問題点等》



【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）11.1（前年DI値▲35.7、来期見通し▲11.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値に比べると46.8ポイントと大きく回復しています。徐々に業況が回復してきている水産業が最盛期となることから、水産資材等を扱う業種が好転を示している他、自動車販売店でも好転を示す割合が多くなっています。しかしながら、自動車整備関連では「やや悪化」との回答となっており業種により大きなばらつきがみられます。来期は▲11.1と再び悪化する見通しとなっており、特に好転を示した業種が再び悪化に転じる予測との回答が寄せられています。経営上の問題点として、「民間需要の停滞」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多く寄せられています。



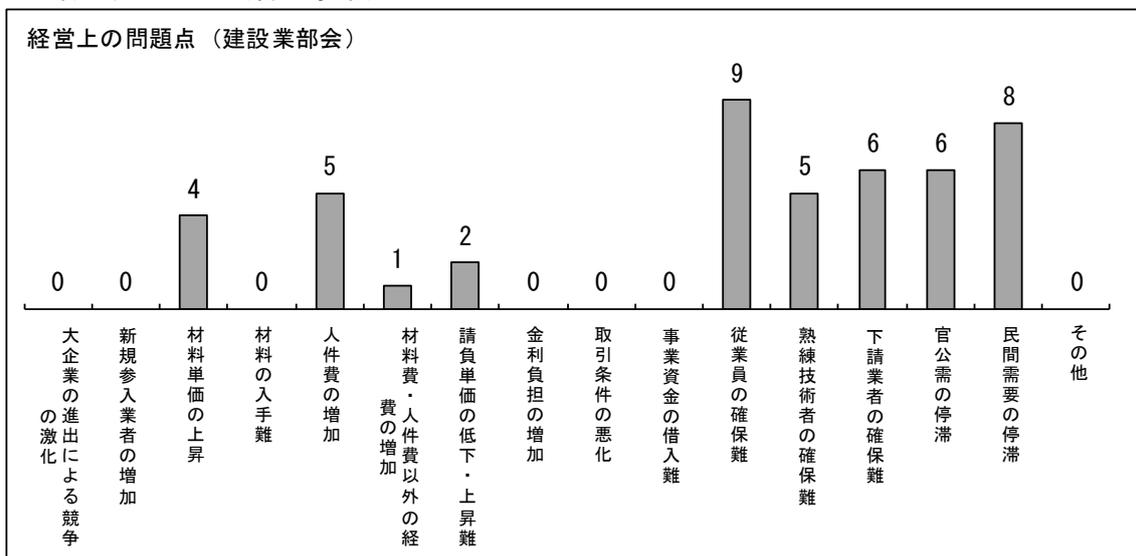
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）0.0（前年DI値▲35.0、来期見通し▲20.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、35ポイントの大幅な回復となっています。昨年と比較すると、建築申請が近年と比較して減少傾向であることに加え、大手や地方の工務店の進出によって地元業者の仕事量が減少しています。しかしながら、電気設備工事や一部土木工事が好転

している他、「悪化」との回答から「不変」の回答がへ移行した事業所が増加したことによる大きな回復となりました。来期は再び20ポイント悪化する見通しとなっております。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「民間需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・大手ホームビルダー又、地方の建築工務店の進出が多く、地元の建築・工務店さんの仕事量が少ない。地元の建築・工務店さんの奮起に期待したい。(建設業)
- ・人材不足!!! (管工事業)



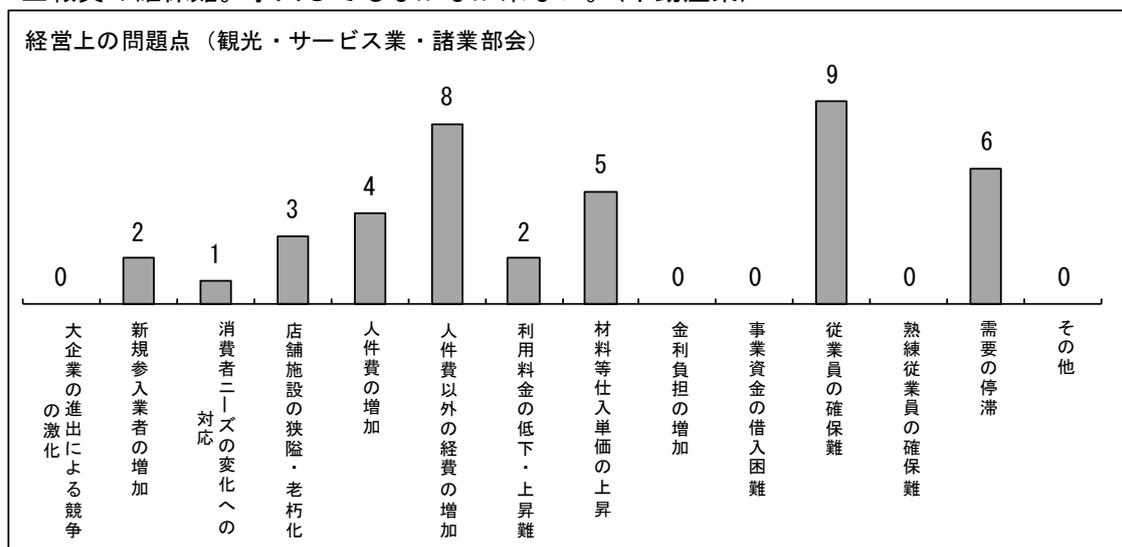
【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値(前年同期比)0.0(前年DI値▲27.8、来期見通し▲23.5)〕

業況判断DI値(前年同期比)は、27.8ポイント回復しております。夏の観光シーズンとなり、観光客の入込増により、旅客運送業や飲食業において「好転」又は前年同期と比較して「不変」と回答するところが多くなりました。しかしながら、理美容、運送業、保険業からは昨年よりも「やや悪化」との回答が多くなりました。次期の見通しは▲27.8と冬の観光シーズン突入前の端境期となるため、再び「悪化」との回答が多くなりました。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・後継者不足(理美容業)
- ・人材難(酪農サービス業)
- ・正職員の確保難。求人してもなかなか来ない。(不動産業)

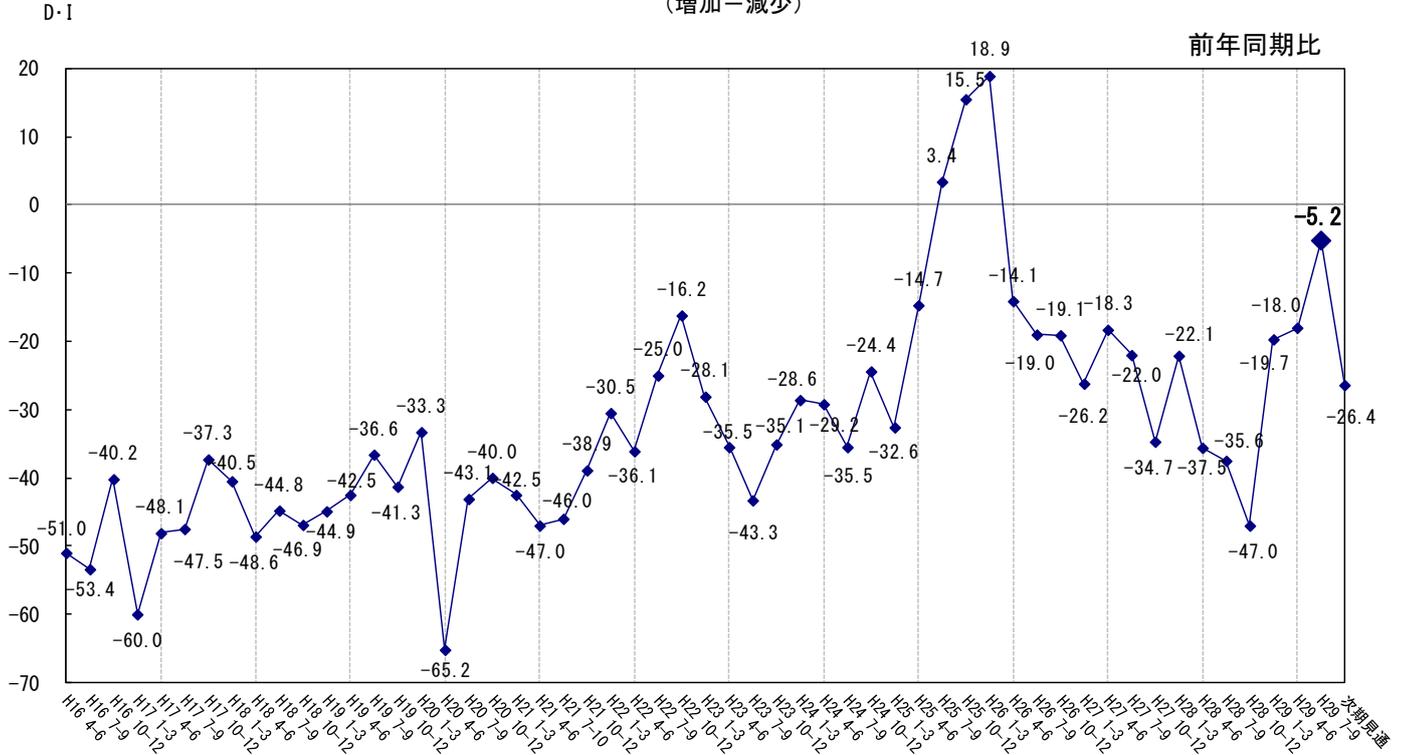


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

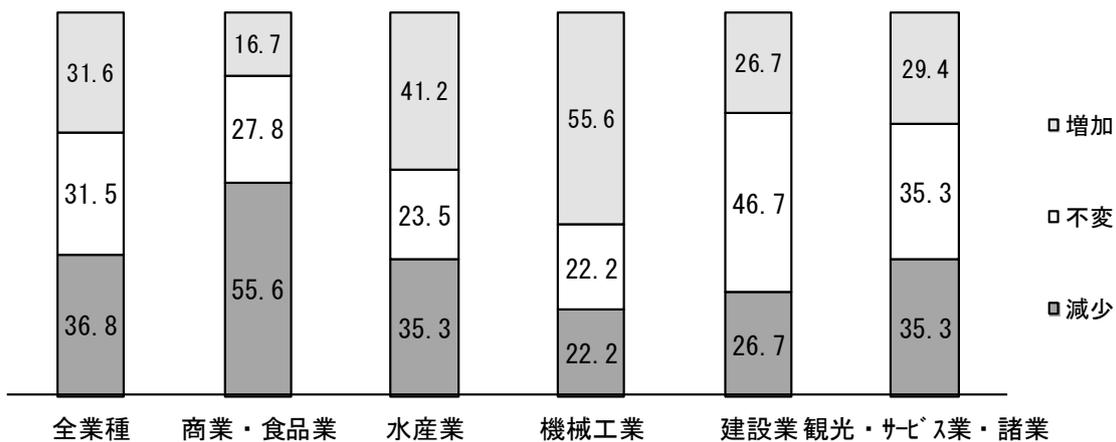
売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



【前年同期比】（平成 28 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値▲5.2〔前年調査時（平成 28 年 7～9 月期▲37.5）より 32.3 ポイント好転〕

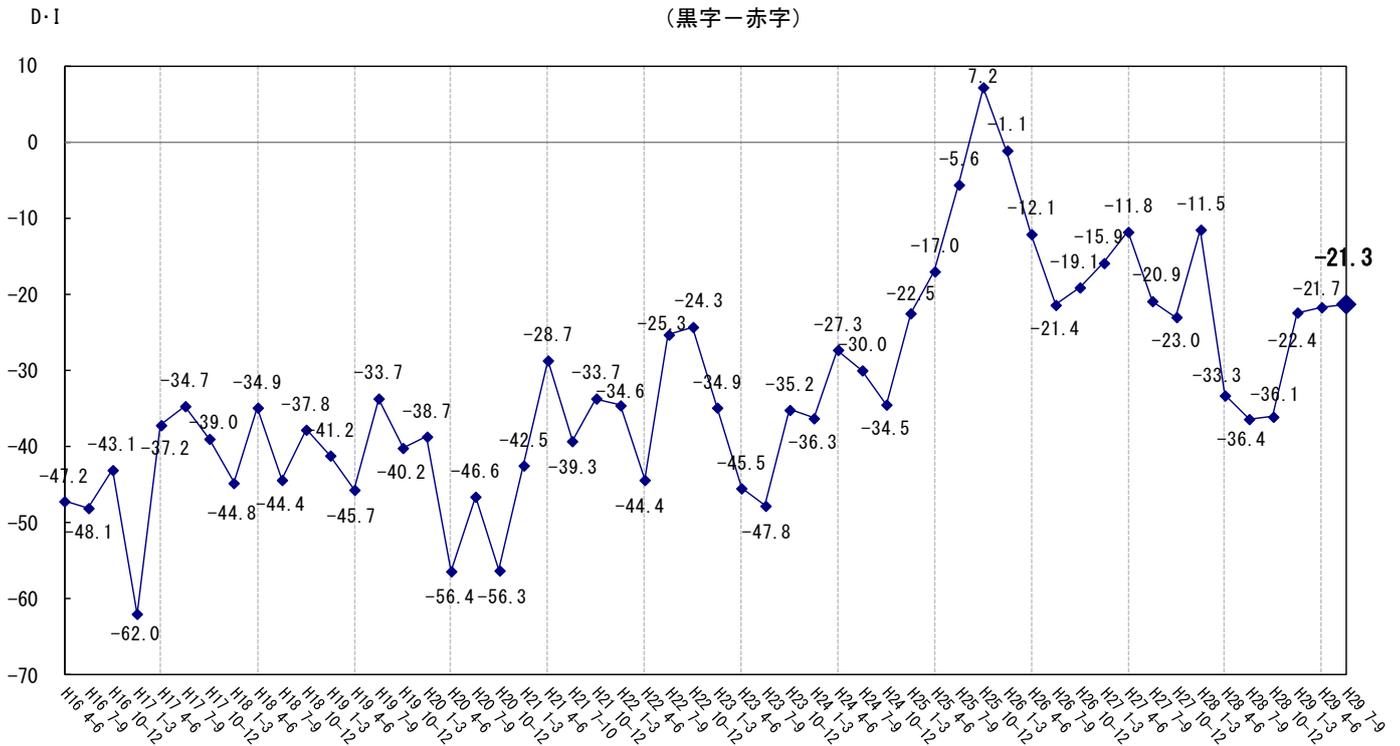
〔部会別 DI 値〕

商業・食品業〔前年▲33.3→▲38.9〕、水産業〔前年▲44.4→5.9〕
 機械工業〔前年▲42.9→33.3〕、建設業〔前年▲50.0→0.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲16.7→▲5.9〕

(2) 今期の採算

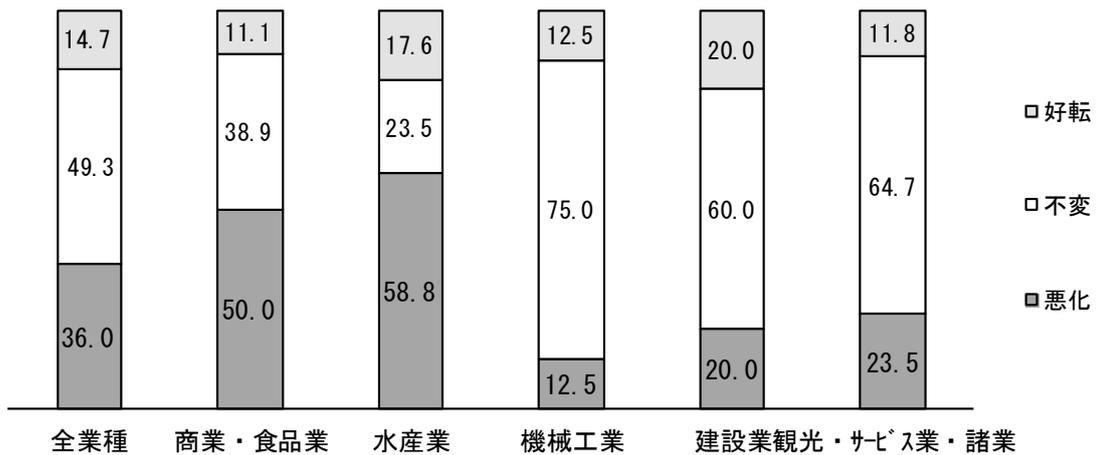
採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



【前年同期比】（平成 28 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の採算水準）

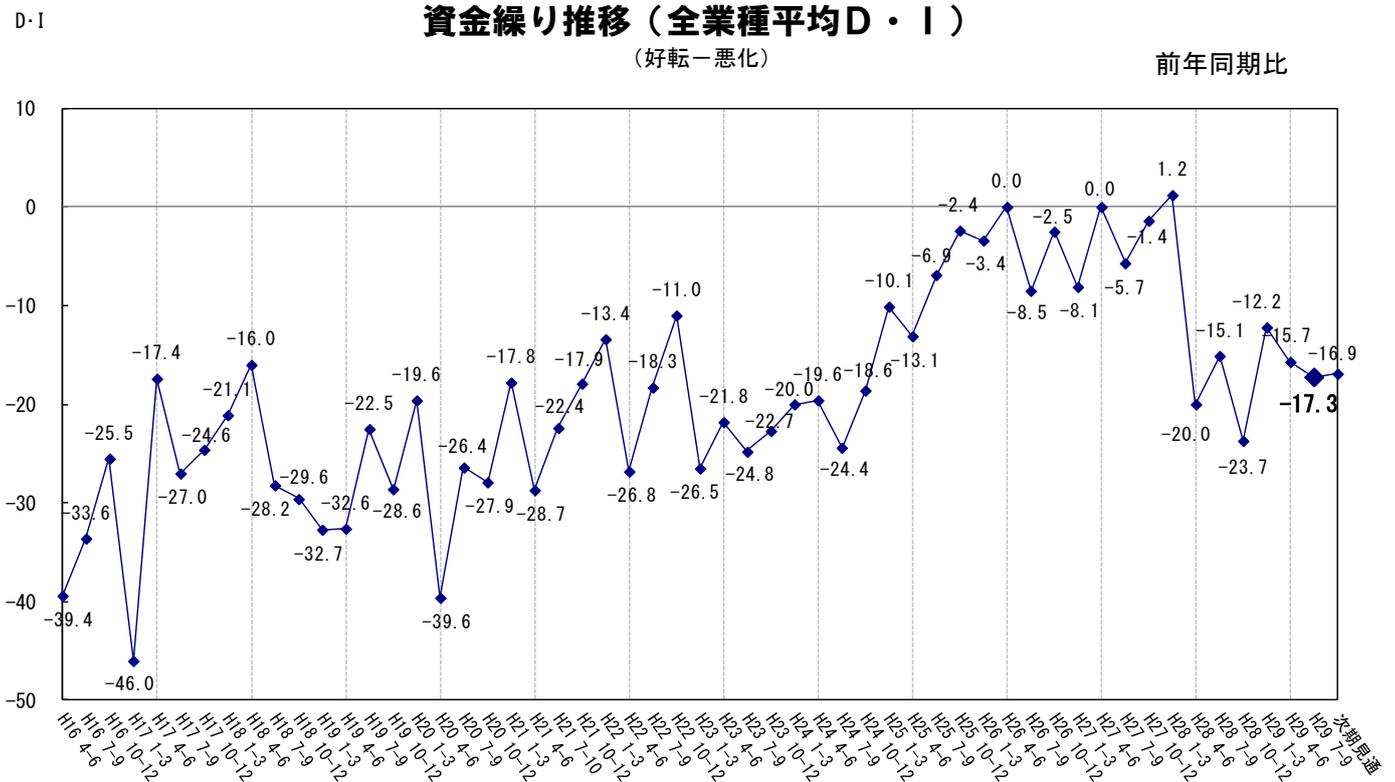
今期の採算（前年同期比）



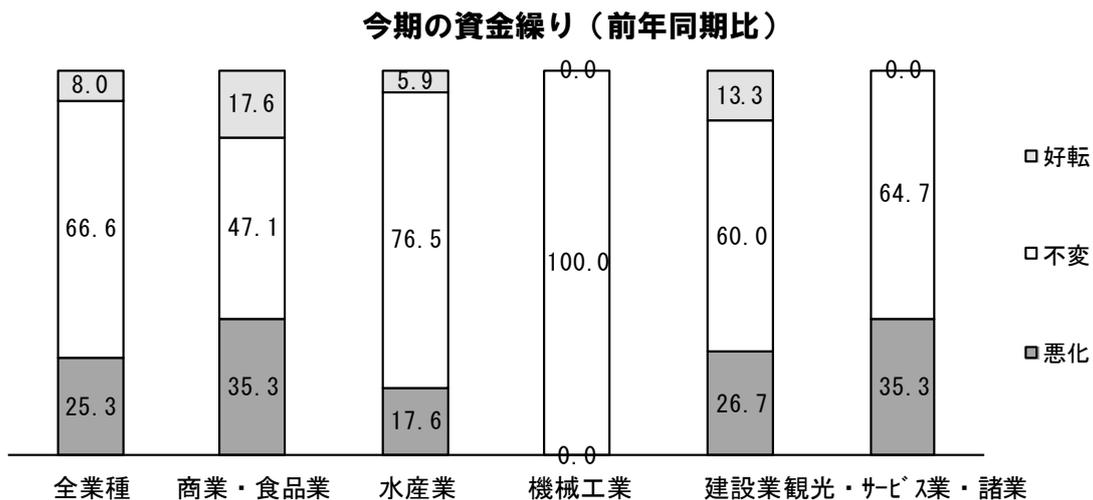
全業種平均でDI 値▲21.3〔前年調査時（平成 28 年 7～9 月期▲36.4）より 15.1 ポイント好転〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲33.3→▲38.9〕、水産業〔前年▲61.1→▲41.2〕
 機械工業〔前年▲28.6→0.0〕、建設業〔前年▲35.0→0.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲22.2→▲11.8〕

(3) 今期の資金繰り



【前年同期比】（平成28年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

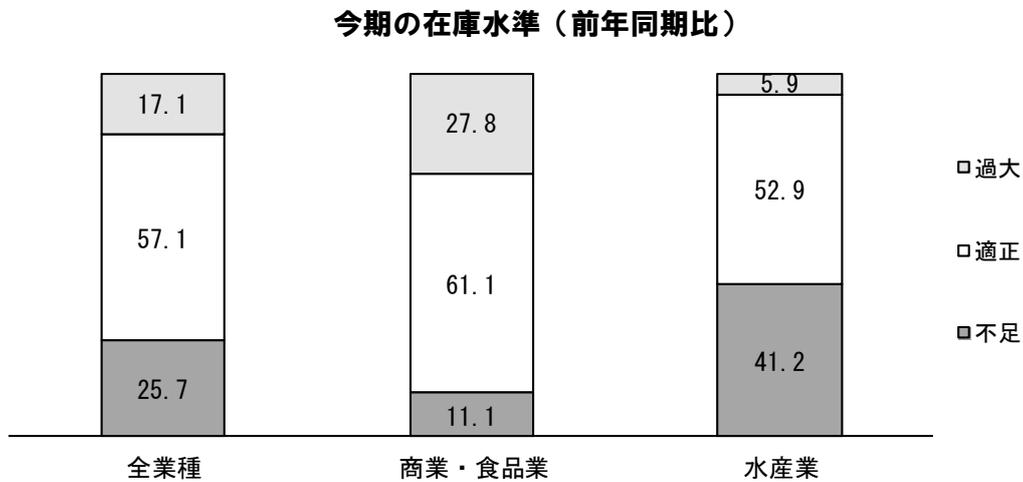


全業種平均でDI値▲17.3〔前年調査時（平成28年7～9月期▲15.1）より2.2ポイント悪化〕

【部会別DI値】 商業・食品業〔前年▲5.6→▲17.6〕、水産業〔前年▲33.3→▲11.8〕
 機械工業〔前年▲21.4→0.0〕、建設業〔前年▲10.0→▲13.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲6.3→▲35.3〕

(4) 今期の在庫水準

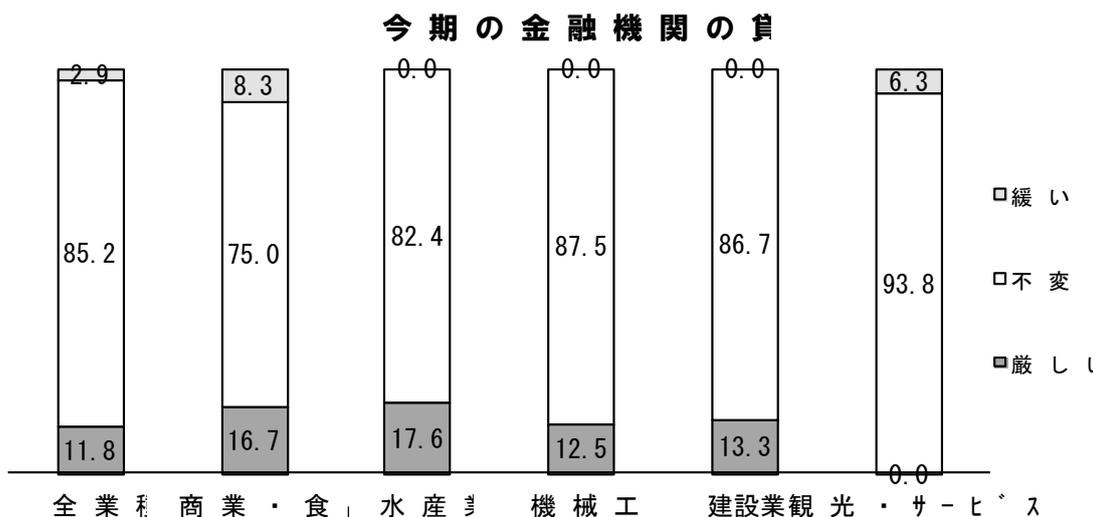
【前年同期比】（平成 28 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の在庫水準）



全業種平均で DI 値▲8.6〔前回調査時（平成 28 年 7～9 月期▲8.4）より 0.2 ポイント不足〕
 [部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年 16.7→16.7〕、水産業〔前年▲33.3→▲35.3〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

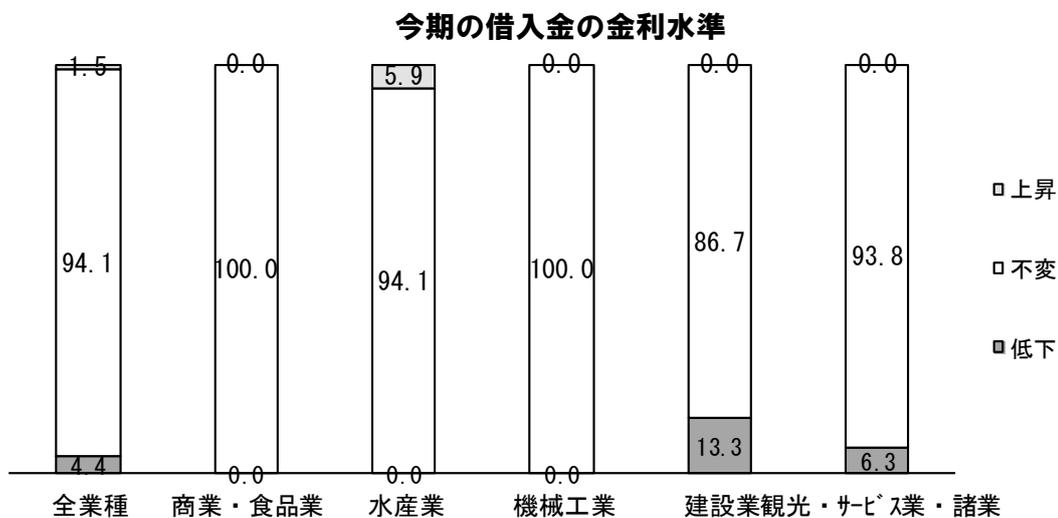
【前年同期比】（平成 28 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で▲8.9 ポイント。商業食品業▲8.3、水産業▲17.6、機械工業▲12.5、建設業▲13.3、観光サービス業・諸業 6.3

(6) 今期の借入金の金利水準

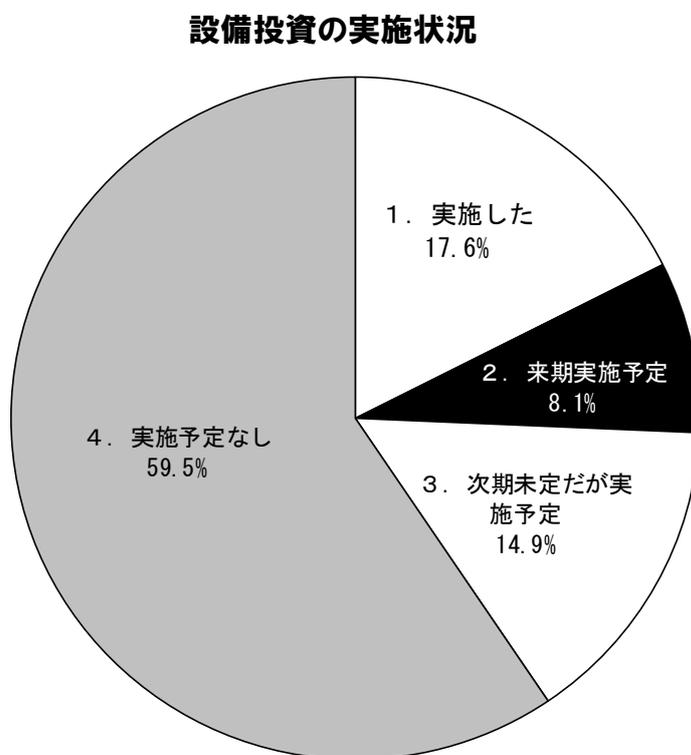
【前年同期比】（平成 28 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲2.9。商業食品業 0.0、水産業 5.9、機械工業 0.0、建設業▲13.3、観光サービス諸業▲6.3

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

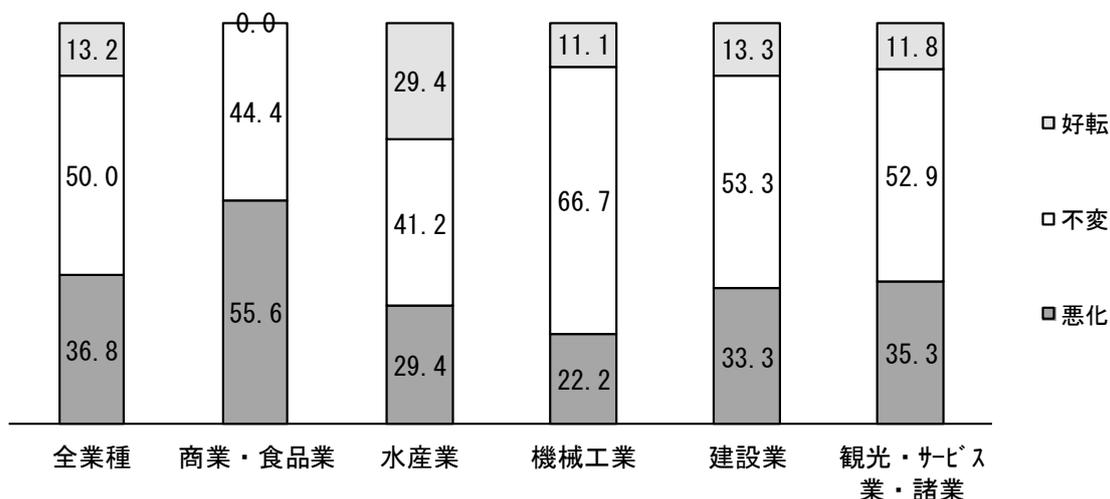


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

【今期比】（平成 29 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

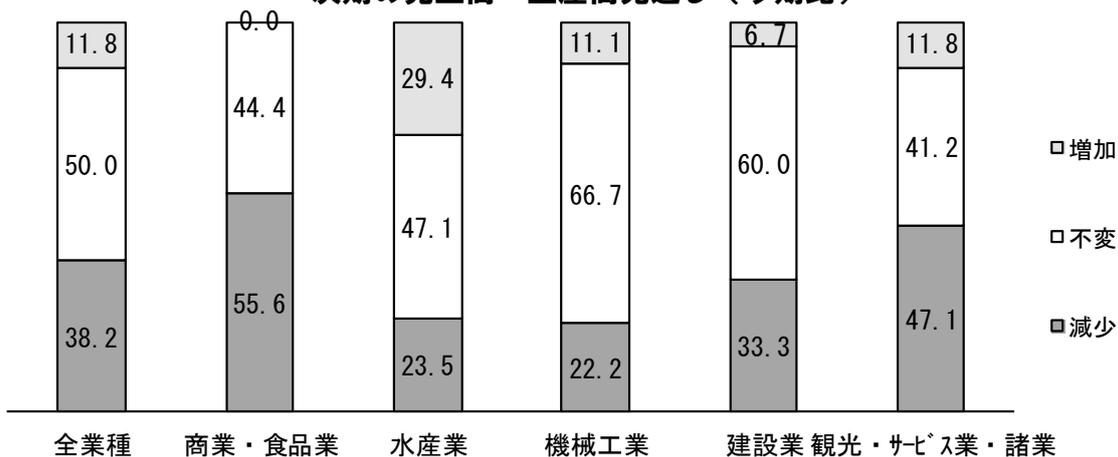


全業種平均 DI 値▲23.6 [今期の業況▲9.2 より 14.4 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高見通し

【今期比】（平成 29 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

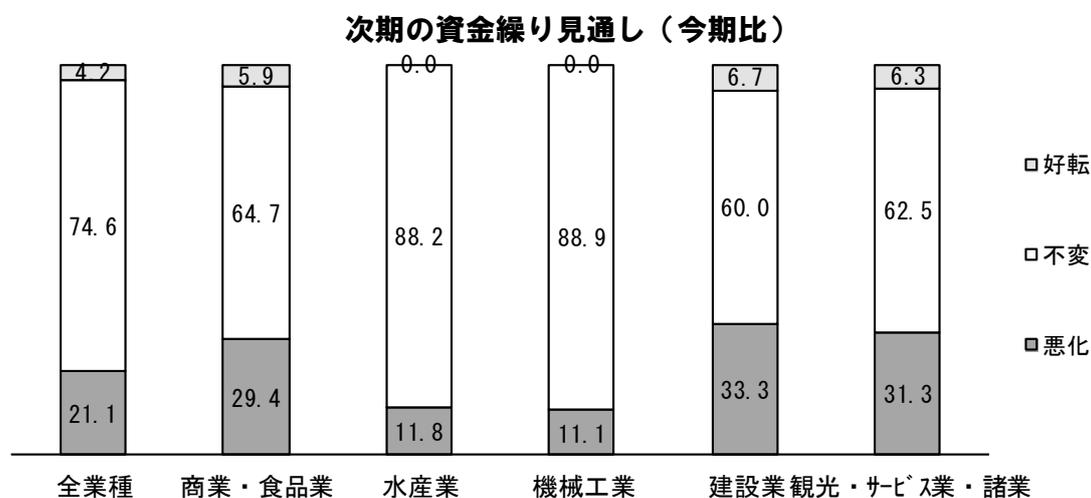
次期の売上高・生産高見通し（今期比）



全業種平均 DI 値▲26.4 [今期の売上高・生産高▲5.2 より 21.2 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 29 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲16.9 [今期の資金繰り ▲17.3 より 0.4 ポイント回復の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲9.2	▲33.3	▲11.8	11.1	0.0	0.0
	来期見通し	▲23.6	▲55.6	0.0	▲11.1	▲20.0	▲23.5
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲5.2	▲38.9	5.9	33.3	0.0	▲5.9
	来期見通し	▲26.4	▲55.6	5.9	▲11.1	▲26.7	▲35.3
在庫 D・I	今期実績	▲8.6	16.7	▲35.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲21.3	▲38.9	▲41.2	0.0	0.0	▲11.8
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲17.3	▲17.6	▲11.8	0.0	▲13.3	▲35.3
	来期見通し	▲16.9	▲23.5	▲11.8	▲11.1	▲26.7	▲25.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	▲8.9	▲8.3	▲17.6	▲12.5	▲13.3	6.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲2.9	0.0	5.9	0.0	▲13.3	▲6.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。